

第10回 (仮称) 岩槻人形会館開設準備委員会 議事録概要

- 1 日 時 平成25年7月30日(火) 10:30~12:00
- 2 会 場 大宮区役所6階大会議室
- 3 出席者 【委員】林委員長、是澤副委員長、村上委員、大越委員、田島委員、戸塚委員、井藤委員、花野井委員
- 【事務局】市民・スポーツ文化局 和田局長
スポーツ文化部 金子次長、桑原参与
文化施設建設準備室 鈴木室長、川田主幹、
粕谷主任、菅原主任、平井主事

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 局長あいさつ
- (3) 議 題
- ①議題
- ア. 資料調査等について
- イ. 支援組織づくりについて
- (4) その他
- (5) 閉 会

5 議題について

(1) ア. 資料調査等について

委員長：資料調査について、事務局より説明願います。

事務局：(資料調査について説明を行う)

委員長： 資料調査等について、5項目にわたって報告をいただきました。調査カード

はかなり進んでいる。データ入力も進んでいる。修復も順調に進んでいるようです。基礎調査、岩槻の人形産業調査も忙しい中成果をあげているようです。収集状況についてもなかなか得難い資料が寄贈されている。これについて資料調査等にご指導いただいているアドバイザーのG委員から補足説明をお願いします。

G委員： 今の学芸員の報告が端的に的を射ていたと思います。あまり補足することもないのですが、聞いていただいてわかるように、もう基礎調査はある程度段階ができております。今後は全体を見据えた収集や調査がこれから必要になってくるのかという気がします。今あげただけでも、日本人形そのものの調査にあとは周辺資料と、いわゆる職人さんたちの聞き取り調査、歴史文化の位置づけ等も出てきます。それから今後全体を見据えて何をしていくのか、この博物館が開館した時に一番の特色になりうるのは何かというと、やはり人形の修復ということだと思います。人形資料そのものを文化財的な意味で修復できる場所は、全国にもない。

これらを総合的に考えると、今あげた5点か6点とかの課題をはたして二人の学芸員で賄えるかどうかと思います。明らかに人手が足りないことだけは指摘できるかと思います。

ただ、二回にわたりました収蔵品展の成果、笛畝コレクションというのが全国レベル、日本を代表するものであるということはわりと関東近辺だけではなくて、全国レベルでそろそろ周知されてきていると感じます。現在人形の愛好家というか、興味を持っている方の人口は割と少ないですけど、今後はこの人形、素晴らしい資料があるところに、この博物館だったら間違いなしということで寄贈がでてくると思います。その一つの表れが緑区の資料です。

この資料は特に江戸後期から明治にかけてのいわゆる江戸文化のなかで作られたもの、特に裕福な町人階級が持っていたような、もっとも典型的な雛人形です。今後この博物館の中で生かせる、クオリティーの高い資料の寄贈かと思います。今まで二回にわたる収蔵品展が成果を上げてきたと考えてもいいと思います。

第3回の収蔵品展ですけど、もう少し種類を広げて郷土玩具まで広がっていきます。展示の内容がどんどん広がっていくということになりますと、学芸員の負担が増えます。日本人形と郷土玩具では違う分野であるので、新た

に色々な対応が必要になるかと思います。今後は全体を見据えて開館のためにどのような調査、収集を支える人材を確保していくのが課題になっていくと考えています。

委員長： 資料整理あるいは収集にあたって、成果はあげている。さらに人的なことに指摘がありました。今の話の中で他の委員の方で質問あるいは確認等ございますか。

A委員： 古い人形は、古いゆえの価値があると思います。かつて当西澤コレクションは、もう壊れたものばかり、ガラクタばかりと言っていた新聞社がありましたが、二回の展覧会で価値が見直されたのではないかと思います。

また、前回の委員会の時にも委員から意見が出ていた文化財修復の講習の件ですが、岩槻の人形職人からもぜひ修復の方法について指導してほしいとの声が出ています。地元の職人が修復のお手伝いをできれば何よりだと思しますので、どうぞよろしくをお願いします。

委員長： 修復技術の継承が課題になっていくと思います。今準備段階の中で一つの「館」の活動の基本になるといった話です。事務局は現状ではどうなっていますか。

事務局： 人形はジャンルが多岐にわたるものです。雛人形や古典人形を中心に修復を進めておりますけど、郷土玩具などは先ほどの調査カードの進捗状況の表を見ていただいてもわかるように、かなり笛畝コレクションの中に数が多いです。こういった未着手のジャンルの人形について、どうやって修復していくかまだその方法自体も模索段階にございます。そういったことを整理したうえでどのような形で岩槻の職人の方に関わっていただけるかどうか、今後検討してまいりたいと考えています。

A委員： このコレクション、文化財の指定ということはいかがでしょう。国は無理としてもさいたま市だとか、埼玉県だとか、大変それに相応しいコレクションがあるのではないかと思います。コレクションの格付にもなりますし、人形の博物館の一つのステータスにもつながるのではないかと思いますので検討よろしくをお願いします。

委員長： その可能性も情報収集して検討しておく必要があります。

G委員： 人形に関しては市のレベルが多いです。何故かというところ、人形そのものが文化財として今まで注目されなかったというところが大きいと思います。笛畝コレクションに関しては日本を代表するものでありますし、できましたら県レベルの指定をとりたい。もし取れるものであれば、差別化ができるかもしれません。人形が県レベルの指定をとるということ自体大きな意味があると思います。

委員長： 私も県の文化財の関係をしておりますから情報収集していきたい。確かにそのような形で人形の価値をきちんと評価していく必要があると思います。

G委員： 手続き上の順番があるかとは思いますが、指定はできれば早くとれるようにするといいと思います。

もう一つ補足ですけど資料修復に関して、何点修復したかという点数をずいぶん気にされているのがすごく気になっています。ある程度日本人形に関しては、胡粉のものは、ある程度技術はそれなりに蓄積されていますが、未知のものになりますと、何点出来たかというよりも、まずどう修復すべきかで議論しなければいけないところです。今後できれば点数であまり計っていただきたくはないというのが正直なところです。

委員長： 懸念は最もだと思います。まだまだ十分に人形の修復に関しては技術的に完成されていないところもあります。この人形博物館が開設された段階での大きな役割になるのではと思います。いろいろな情報を提供する中では、数字も必要になると思います。ただ、資料点数が何千点という数字がでたとしても実際博物館の展示においてはそれが必ずしも実数にはならないということはやはり認識する必要があると、前回の委員会でもでした。

今のコレクションの内容では十分な資料の点数ではないことは十分認識されていると思います。さらに質の良い資料を継続的に収集していく必要があります。議論はいろいろありますが、予算化し実際に購入していくという方策は必要です。

この点についてこれからまだ、今の笛畝コレクションのレベルの物がさらに収集できるかどうかでしょうか。

G委員： ご存じの通り笛畝コレクション自体も、すべてがさいたま市の所有になったわけではありません。

人形文化のために何を指すのかと言ったときに、収集の方針も決まってくるかと思います。いわゆる石垣を作って岩槻城の形を模したりするような、郷土に密着した方向性で行くのか、あるいは人形を日本の文化遺産と位置付けて人形博物館の基準となりうる博物館を目指すのか。それは館のコンセプトになってくるので、おのずと笛畝コレクションの統合というようなことにもなってくると思います。

委員長： 今後の開設準備での課題であることは事務局も委員の方々も認識されているのかなと思います。その点はよろしいでしょうか。

その他何かありますか。

F委員： 修復が5年目を迎えるというのは早いなと思います。さきほどの説明で何年かかるなどは、なかなか区切れないということですけど、修復に携わる人は今も当初からの2名の方で進めていらっしゃる。今後力を入れ、担当する方を増やすということは考えにないですか。と言いますのは、開館までに全部終わらなければならないということではないのですが、開館に間に合うようにある程度、修復やクリーニングを終えた資料を多く確保できておくと良いのかと思います。

それともう一点、資料収集の報告で、寄贈で文献資料約250点というのがありますが、以前に笛畝コレクションの一部として寄贈されたものがありました。それとはまったく別のものですか。

事務局： 同じものです。以前に一括で取得した笛畝コレクションの文献資料は、購入の部分と寄贈の部分が分かれております。寄贈部分が約250点ということですよ。

F委員： それともう一点、今度のプラザノースでの所蔵品展の予定ですが、展覧会構成は1～4の4部に分かれているようですが、これは全て笛畝コレクションの中の物で構成をしているのでしょうか。

事務局： 笛畝コレクションに加え、新しく寄贈いただいたものを今回公開する予定です。書類番号1に写真を載せております緑区の個人からの寄贈資料は、たいへん良いものですから、早速今回公開したいと考えています。

委員長： それは新たな寄贈を呼び込みたいという意味合いもありますね。
展示をすることで、かなり人形博物館や笛畝コレクションについての認識が広まったと思っています。これは開設に向けて意義があることだと思います。事務局は大変でしょうけどよろしくお願いします。
その他いかがですか。

A委員： 文化財として価値のある資料なので、要望書を出された団体にもぜひ見ていただきたいと思います。

委員長： 事務局側からなにかありますか。

事務局： 地元の博物館ということになるわけですから、建物だけに目を配るのではなく、ソフト部分、どんな事業を展開し、どこをメインターゲットとして将来を担っていくということについて、今後もPRには全力で取り組んでいきますので、またその時にはご支援していただきたいと思っています。

委員長： 資料調査についてはよろしいですか。だいたいこの辺で。

C委員： 人数が少ない中での資料調査は大変だと思います。そのような中、埼玉県立歴史と民俗の博物館にも出かけていただいたようでありがとうございます。2枚目の収集資料の報告の中で版本と浮世絵、古写真とありますが、古写真はどんな感じなのかわかる範囲で教えてください。

事務局： 古写真は明治頃の物です。鯉のぼりが描かれた、その町がどこかはわかりませんが、宿場のような街並みに鯉のぼりが上がっている。明治の端午節句の様子を知ることのできるビジュアル的な資料としては大変価値があるものです。場所はまだ調べられておりません。

G委員： 日本を代表する古写真コレクションにモースコレクションというのがあり、

このコレクションにも同様の鯉がたなびいていた写真があります。江戸の資料を見ると江戸時代の人びとって鯉が好きなのです。すごく資料的にも面白い、これだけたくさん鯉があるという姿は資料的に良い位置づけができると思います。

事務局： こういった古写真というのは貴重ですが、人形組合の方で昔の岩槻の白黒の写真とか何かお持ちではないのですか。

A委員： 今、ある出版社の企画で岩槻の古い写真を集めて本にして11月に出版するというので、古い写真があったらぜひ提供くださいと、各家庭に新聞折り込みで働きかけがありました。なるほど、岩槻の古い写真も、あと10年、20年経ちますと貴重な写真を見ても何が写っているのかわからなくなってしまっているのではないかと危惧しています。今が一番大事な時かなと思っておりまので、ぜひ私たちが協力させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

委員長： その点はよろしくお願ひします。
では次の議題に移ります。

(2) 支援組織づくりについて

委員長： それでは、次の議題について事務局のほうから説明をお願いします。

事務局： (支援組織づくりについて説明を行う)。

委員長： D委員から補足があればお願ひしたい。

D委員： 開館が伸びまして、実をいうと中だるみになっている状況もありました。当初は、この人形会館が人形組合の産業施設じゃないかというような認識があつてそれを払拭することと、それから人形会館が開館した時のボランティアサポーター、そういうような意味合いでスタートしました。開館が2年遅れてしまったのでずいぶん方向を修正せざるを得なかったということがあります。ただ、幸いなことに方向を修正した結果、この施設が市民施設であるということ

を大きく支援できるようなものになってきたという気がします。

まず、先ほどお話をした人形会館の正当性はこの団体の活動がアンケートを取ったり、あるいはいろいろなビラをまいたりすることで団体としては認知されていなくても、人形会館の存在を広く広めることには役立ったのではないかと思っています。当初の狙いの一点目は達成したのではないかと思っています。

二点目は市民施設であるが故にこの人形文化というものが地域にあって、その人形文化の核になっているという施設であるということ、地域の人達、ひいてはさいたま市全体が認識することに関してどのようにこのサポートーズが機能したのかというところで、徐々にではありますがそこは達成している。特に人形文化がどうやって生活文化の中で重要な位置を占めていくのかは視察をしてあちらこちらでそういう例を聞いてみると、その認識を深めることにつながるようでして、特に少し高齢の方のお仲間とその話がどんどん広まって行って、視察会をやるとたくさんの方が集まってくる。観光だと言ってくる人もいない訳じゃないでしょうが、しかし観光というのは本来、勉強するという意味あいもありますので、そういう意味では、徐々にこの人形文化をつくるという動きの方に動いていっている。

このことは、一方で人形会館が出来上がった時に人形会館の運営をしていく組織の中に、このサポートーズをどう支援する人がいるのかということが実は重要なので、学芸員の方にそのようなお仕事をさせていただくことは実はあまり必要なくて、事務局の方にこのサポートーズの人達を支援して、さらに地域の人形文化を高めていく方向への役割を持っていただく部署があるといいと思います。

特に小学校の人達が人形を作っていて、それが自分たちの良い思い出になっている。ずっと人形を持っていられることをみると、人形文化が切れてしまうのではなくて、人形文化を育てていくことが実は必要です。それは学芸員の仕事ではなくて、地域の仕事です。その地域の仕事をどうやってこの(仮称)岩槻人形会館が支援していくのか、そこが重要なことだと思います。

今年はできたら少し世代を広げて行って、比較的年齢が高い人達が多いので、もうちょっと若い世代の人にサポーターのメンバーになっていただくようなことを考えています。それから市長選も終わりましたので、建ちそうになってきたので、いよいよどうやって具体的な開館の仕事をサポートできるかに話題を集中させていきます。こちらを逆に学芸員の方にいろいろお話を

伺うこともあるかもしれません。たとえば勉強会をするなり。そんなことがありますのでぜひご協力お願いしたいと思います。

それからちょっと余談になりますけど、岩槻区の区役所の跡地に人形会館が来るほうがいいのではないかというような意見もあってですね、私としてはちょっと寂しい気がしています。というのは、実は区役所の場所は駅から少しは離れているとはいえある意味もうちょっと経済力の高い、生産性の高いものがきて、その生産性が高いものが入っている施設の余力の部分で色々な文化施設があったり、それから他の新しいインキュベーションが行われたりするっていう、そのようなタイプのものだろうと思います。

都市の再開発で集合したビルを作って都市を小さくするという発想がどんどん進んでいて、我々が知っている新しい例としては渋谷ヒカリエがそうです。ヒカリエは本来東急のブランドですので、東急のブランドに似合わないようなものは入れない、というのは昔の考え方です。今、ご存知かどうかわかりませんが、漫画雑誌の展覧会までもやっている。だから言ってみれば、対岸のほうにあったものまで引っ張られてきている。そういう意味では商業施設を作って、その商業施設が公共的なものをリードしていくと、それが開発のコアとなるべきものです。

そう考えると人形会館がそれほどの生産力があるのかという問題になり、例えば人形会館の入場料が5,000円いただければ、もしくはお食事つき10,000円いただければ、それはいいですよ。それで2万人から5万人の人がやって来てくれば。だけど盆栽でも5万人ぐらいの人がやってきていただいて、それで入場料を今より高くすることはできません。それは市民施設なので当然のことですから。若干赤字になるかもしれない。だとするとこれが核に来るべきではなくて、核に来るべきものは、もっと生産性の高い物が核にくるべき物なのです。

例えば、日帰り入浴施設、例えばです。そのような生産性の高い物を地域で考えていただいて、それを誘致しても良くて、そういうような物を中心にして、そこに人形会館の一部の機能が来る。例えばこのサポーターズの機能が来ることはあっても良いかもしれない。仮に人形会館が相当な面積を取って施設に入った時、本当に生産性を高めて地域の活性化につながるのかどうかは、私はいささか疑問です。なので、逆に岩槻の方にとって人形会館に対する期待は非常に大きくて、高い生産性までも期待していただけることになったということはすごく成功だと思うのですが。ただ、そこまでの能力を、

このやがて美術館を志向としようとしているものにあるのかということそこには若干の疑問があります。

私はもしその都市局の方のやっている委員会があったら、どういう物を入れたらどうやって町を変えることが出来るかというシミュレーションをしていただいて、その中に付帯的な機能として人形系の物があってもいいかもしれないけど、本当に人形会館が中心に来ると言うのだとすると良く点検していただきたい気がします。

今私が思っているのは、サポーターズが出来てきて、皆さんが人形だって言って盛り上がってきてできる物は、人間関係資本と私たちが呼んでいる人のつながりができ上がってくるのです。そうすると例えば、イベントをやろうという時に人が集まる。何かやろうとする時、人形を核にしてやろうじゃないかという意見が出てくる。それから、自分たちのところの人形を他で見たときに、これ岩槻の人形ですよ、という自分を奢るというアイデンティティが生まれる。そのようなことが今、期待できるのでそっちをまず立ち上げて、それから現金の経済効果というのは、もうちょっと他の物とリンクしないと今の段階では力としては弱い、そんな気がします。

今年のサポーターズは、ポイントとして、いよいよ開館に向かってどのような協力ができるかということを具体的に刻んでいく、それから人形文化を地域の中に広めていくために、もうちょっとサポーターズが世代を超えていく、そのためにいくつかの仕掛けを8月1日に決めることになっています。今は申し上げられませんが、具体的なプランが存在し、それを審議しようというところにきています。

委員長： ありがとうございます。

これについて何かご質問、ご提言ありますか。

E委員： 意識調査のアンケートを拝見させていただきましたけど、その中で特に岩槻在住だけれども岩槻出身でなく、30年以上住んでおられるような方の中になかなか強い支持が生まれていないようなことが見受けられます。⑤の最後の“60代に「必要ない」とする人が多い”というところですが、このあたり非常に興味深いと思います。どういう方たちなのかと考えると、30年住んでいるということは1980年代に東京の郊外が開発されるとともに移り住んだ人たちだと推測されます。この方たちというのはおそらく一番東京の工業化が

進んでマイホームを求めていた時に、たまたま岩槻に住居を求めたようなサラリーマン層が中心なのかと思います。多摩ニュータウンですとか埼玉県でそういう工業化が1980年に非常に多く進んでいる。そういう方たちから見て、特に安息が今の時点である訳ではなく、かつ、住んでいる方たちというのは、人形会館の計画がなければ、その代りにどういう他の支出が行われるのか、自分たちの税金が使われているという意識があります。他の地域の人から見て、たまたまここに人形会館が無いよりあった方がいいと思うのに対し、市民が厳しい目で見るということは自然なことなのかと思います。

一方でこの方たちが、今60代後半ぐらいで第二の人生を歩まれ始めていることを考えると、うまくその魅力をアピールして味方になっていただけると大変力強いのではないかと、ある意味、マーケティングをしていく価値のある人なのではないのかということを感じました。

もう一つ、区役所の跡地についてなんですけど、前年度、住民意識調査を行ったところ、やはり人形会館の現建設予定地のところまでどういう人が流れていくか、その人たちが岩槻の町の中にも何かこう人の流れとして好転していくようなことになるかどうか、つまり人形会館に直接大型バスでやってきて、見たらいなくなってしまうということではなくて岩槻の駅からやってきて公共交通機関なり、徒歩なりで楽しみながら人形会館まで行って、また別の人形屋さん等も見ながら帰っていってけるとだいたい地域に対するインパクト、地域の方々の見る目も変わってくるのではないのかということ考えたことがありまして、そういう意味では区役所の跡地に何を作るかというのは、これが人形会館に直結する物であるないに関わらず、そこと人形会館をどう流れとして結んでいくのか、動線であるとか、バスのような物、あるいは歩きやすい道であるとかそういったところをぜひその都市局の委員会の中では、そういった点から議論していただくような話になっていくとありがたいなと思いました。

委員長： 今のご指摘で、人形会館が必要ないという少数の人達をむしろ情報提供のターゲットにしては、ある意味では広げやすいということですね。

あと、場所の問題で、そこに至るまでの人形博物館と岩槻の様々な文化、観光施設、そういうものとの連携を考えていくと。どのような動線で、基本的に岩槻駅からの導きというのは前の準備委員会でも話題になっていたかと思えます。それについてD委員何かありますか。

D委員： 2点ほど、今の話を踏まえての話、非常におもしろかったですけど、ただ、最初の1980年代に引っ越してきた人たちというお話は、実は不思議なことにサポーターズをやっている人達が皆そういう人達です。岩槻の住民は、二極化していることがあるかと思います。もう一つ非常に明快なのは、高齢者になった時の自分の関心と生涯のライフステージと若干関係がある。いくつかのグループがあって、そのグループのどちらかという文化志向グループの人達は地域の中で仲間を作っていきます。その地域の中で仲間を作っていく人たちが今いくつかあるものが一つになろうとしていて、その中心に、この年代のサポーターズの方々がいます。その人たちは実は元々は上場企業の部長さんだった、取締役だったとか、そんな人たちがその中にある。実は、この60代の人達をこれからターゲットにしなきゃいけないというのは彼らもよくわかっている。

一方で、こういう組織を作ってもマネジメントする時に組織のことを知っているか知っていないかという問題があって、この60代の人達の今もうちょっと年上の人達が集まったりする。彼らは本当に組織の動かし方を知っているので、私はこの60代で関心が無い人達に、そこにだけ呼びかけるよりも、もう少し若い人達に彼らが呼びかけをして幅広く浸透してもらうことのほうが、価値があると思います。

子供たちに、人形体験をしてもらったら文化教育、歴史教育もして、人形なんとかというバッヂをあげるとか、もう少し底上げから狙おうと、今のサポーターズの人達は考えている。言ってみれば、自分たちが昔、自分たちが作った商品をどうやって広めようかという苦労をしてきた経験が、今度は組織、地域の中で自分たちの仲間を広げようという時にその経験が話題としてでてきて、生かされているところもあります。

確かに60代に落ち着いているっていうのはわかりますけど、そこは少し待ちたいなと思います。それから先ほど私は強い意見を言いましたが、おっしゃるとおり、たくさんの方が集まってくると、若干、取り回しが難しい。だけど、その問題は先ほどの話と絡めていってやらなければいけない。例えば文化財の指定をして、なおかつ使われているものが、価値があると社会に広めていくことなので、それが広まっていって、そして初めて旅行業者がここを使おうと思う。他の地域の方が視察に来ようと思うとか、そのへんが鉄道博物館や盆栽美術館と申し訳ないけどレベルがちょっと違うのです。これが盆栽や鉄道博物館なら確かにお客さんは来てくれる。例えば、盆栽だった

ら外国人のお客さんはたくさん来てくれますね。ここは、じゃあどうやったら観光客、外国人のお客さんが来るかっていう、それはこれから、かなりきちんと仕込まなきゃならない。この仕込むことが、これからやるならばそれをやるときに中心施設を絡めていく。それからお城を絡めていくとか。そういうコース作りがこれからできるかと。一方で駅から通う人がどのくらいいるのかというのは中心市街地の問題です。ちょっとそこが難しいと思います。

委員長： 今の話の中で、ある意味では人形会館に人を導く方策としては岩槻の町中の様々な文化施設とかその他の色々な情報を利用者に提供しなければならない。町の見直しというかそこら辺がでてくると思います。その点C委員さん、色々課題が多いと思いますが、だいたい町をどう広げたいのか、再開発を行っているようですけど。そういった文化的、歴史的な資産を生かした見直しみたいなものは動線の中では企画として挙げられているのでしょうか。

C委員： 近いところでは、岩槻の駅舎の改修が再来年3月には完成して東と西の動線が通じ、今まで西口方面からは踏切を渡ったり、トンネルをくぐったりして回ってきたのがすぐに通れるようになります。逆に言いますと、市外から来られる方も西口にそのままいけるようになります。岩槻の町はご承知の通り、お城は駅の東側に、位置から言うと南側になります。東武野田線岩槻駅は土塁の外側で、内側に旧の武家屋敷や町内等があります。幸いなことに駅から歩いて10分以内に、旧区役所があり、途中で県指定史跡の岩槻藩遷喬館や時の鐘があるところがだいたい10分ぐらいの圏内になります。さらに先に10分程で、人形会館の建設予定地があります。

区内の文化財を案内するサークルの方が結構たくさんいて、区の方でも歴史散策事業というのを月に1～2回ぐらい実施しており案内役をお願いしています。区内の方をはじめ市外の方も結構参加していただいております。お昼には老舗の料亭で、昼食をなんとか廉価で用意していただいて区内の名所、史跡など、歴史のあるところを見学していただくということを年間20回ぐらいやっております。毎年、大宮区からも岩槻を知ってもらうために50人ぐらいで来ていただいております。他の区との連携もさいたま市の中でやっとならなければならないということもありますので、お互いに行ったり来たりしましょうとっています。そこで、緑・見沼・岩槻区の三区と連携し、9月29日には、日光御成道のウォーキングイベントを計画しております。浦

和美園駅から御成道近くの見沼用水路を通過して岩槻区まで約14キロの行程です。

旧市で面積・人口とも変わらないのは岩槻区だけなので発信する力は非常に弱いものがありましたので、さいたま市の一員になったからにはさいたま市の方々にも岩槻の良さを知ってもらいたい思いがあります。私は生まれも育ちも岩槻なものですから、余計愛着はあります。その反面、やはり外から見る目というのは非常に弱いというのは自分でも感じておりますので、区では集客のできる事業に取り組んでいます。

それからもう一つ、先ほど申し上げたように岩槻の駅舎の改修に伴って地下鉄7号線の延伸事業も今取り組んでおります。先ほどのウォーキングイベント等もやはり、地下鉄7号線の延伸をサポートするような仕事に位置付けられていると思います。ですから埼玉高速鉄道のほうから東京都内の方を呼び込んだり、あるいは地下鉄7号線の鉄道戦略室でSRの浦和美園駅から岩槻駅までの快速バスを9月から運行を予定していたりしています。

今年はまちかど雛めぐりにあたり、浦和美園駅から岩槻駅まで、臨時のバスを出しております。特に岩槻の場合はやはり、歴史と文化ということで売り出しているのですが、どうしても川越、行田に比べますと資産が、決して私は少ないとは思っていませんが、活用の仕方が上手くいっていなかったところがあります。市内の名所、史跡とも地理的に離れており、町中に集中していません。例えば、慈恩寺は非常に駅からですと遠い。行っていただくと大変良い所ですが、足の確保というのも課題になります。色々な面で今後、ポイントになるのはやはり駅舎を改修した時、そこに和風の駅舎が現れれば、駅前が変わったなということが印象づけられると思います。その時には旧の区役所跡地の方も何が建てられるのかということは既に検討は終わっていると思います。その辺のところを連動させながらひとまずは駅を中心にした街の活性化を図っていくということです。

あともう一つ、商店の元気がない。それは致し方ないことですが、商売を辞めてシャッター通りになってしまったところも活性化のために、イベントスペースを作るところが岩槻の場合まだ少ないことです。おそらくそういうことを考えている方もたくさんいらっしゃると思います。実際に岩槻を非常に盛り上げていただいているのは60代以上の方で、3～40年ぐらい前、区内に越されてきた方に元気を出していただいています。私のように地元で育った者はむしろ成り行きを見守っているというところもあります。

ただ、もともと岩槻に住んでいる者にとっては人形というのは子供の時から、私自身の経験から言っても隣家のニカワのにおいを嗅ぎ、頭師さんの仕事を見ながら育っています。非常に愛着がありますからそういう資産を生かしながら、人形会館を作っていけば、岩槻の核になるものと思います。

委員長： 他の委員の方どうですか。

F委員： 岩槻はやはり人形の職人の町です。2キロ範囲内にかかなりの数の工房があります。みなさんは人形を作るまでの工程なんかについて、どういうものか関心がすごくあるのです。それをわざわざですね、会場に持って行って見せるだけではなくて、私は工房めぐりみたいなものを観光の策としてやってもいいのではないかと思っています。そのために、行政側からも、工房の改修ですとか、人を呼べるような支援をやってもらったら、これはもう何処にもない資源となるかと思っていますので、これはぜひやってもらいたい。

委員長： 地元の強みを生かすと。ぜひ、行政、人形組合、と連携して実現できればよろしいかなと思います。オープンするとなるとそういったものの整理とかどうしても必要になると思います。その準備を現在していると。

その他いかがでしょうか。

D委員： 全く別のことも知れませんが、実はこの間、盆栽美術館の方の運営委員もしていてそこでも発言させていただいたのですが、我々が保存しようとしているものは、実は価値が高いものということ、他の価値の高い物と一緒に説明するっていう方法があります。私はそれに盆栽の方では、ツール・ド・フランスがあった時の優勝者に何かを渡す、プレスの方のところに盆栽を置いたらどうですかと言ってみました。

例えば小学校の卒業式の時に、レプリカのお人形、要するに卒業証書を渡す時に盆栽を置いてその後ろとか横に、人形会館の代表的な人形が置かれるというような設え。必ず埼玉新聞にそれを撮ってくれて頼んでおく。

そういうような段取りを踏んでいくと何が大切なのか、我々のまちにとって大切なものはなんなのかということ、記念碑とともに記憶することが出来る。そのような活動をそろそろ仕込んで、貴重な人形を博物館が出す必要は無いです。同じものをここにある、これはレプリカにして小学校に回ってま

すよという。

さらに、ワールドカップスタジアムのようなところで、サッカーの何かがある時の、表彰する時に盆栽と人形が置いてあるという設え。偉い人の隅に寄って行って、何て言うのでしょうかね、俺も一緒にみたいな感じで自分達の価値を同じレベルにして説明するということが、そろそろ仕込んで行って出るといいかなと思います。

委員長： それはいいアイデアだと思います。常に何かの場に必ずそういった人形があるということですから大きな効果があると思います。それはぜひ事務局のほうでも考えていただいてください。

B委員： アンケートの結果で5人に1人はわざわざ岩槻から浦和まで来ていますね。それなのにその1割がミュージアムは必要ないという結果で、すごく不思議です。大抵の場合、わざわざ来て取りあえず良い物を見たら、全否定はしないと思います。これが否定的な結果が出た理由は何か。価値がわからない、もう一つ、それが開館しても何が自分は楽しいかわからない。その二つの理由しか考えられない。

何が楽しいかというのは、これはしょうがないかなと思います。まず、文化があれば町が良くなるという幻想は抱かせてはいけません。それはあくまでも個人の感覚なので、そういうことは言っただけとはいけませんが、それにしても事務局がそういうPRを何もしていない。というのは、コレクション以外の活動の全体像、例えばコミュニティー施設としてどれだけ活用できるのかといったことがほとんど広報されていない状態です。このアンケート結果は、やはりもうちょっとなにか、全体像をしっかりと示せていないという問題に起因しているのではないのでしょうか。

さっき話題に出た工房めぐり、作る現場を知るとというのは一番の動機づけにもなるのでとてもいいのですが、そういう企画をプロデュースするスタッフが事務局側にほしいと思います。それが学芸員の資格をもっていれば、それにこしたことはないのですが、一般事務職の方でも構わないと思います。支援組織や他の色々な層の人をつなぐ専門家が事務局にもいてほしいなということです。もうそろそろ支援組織などの団体と人形会館が具体的にどういう繋がりを持つのかを事務局側から示す時期に来ているのかなと思いました。

もう一つは、今年も展覧会が控えているわけですけど前の2回の展示技術

がとても良かったし、修復という地道な工程の評価が信頼を得るようなことが良くて、それは寄贈にも繋がったと思います。しかし、PRはすごく下手だと思いました。それはPRのターゲットがはっきりしていないのと、新たなファンの掘り起こしをするようなPRじゃなくて、すでに知っている人に向けてのPRという、いたって硬く真面目なものでした。毎年この時期になると、全国のお雛様のチラシが何十種類も出回り、これらに完全に埋もれて全然目立たなかったです。それはデザインなどのビジュアルな面だけではなく、やはり施設のコンセプトにつながるような特色が示せていないのが原因で、すごく中途半端なものだったと思います。

PRを考える人たちは、時には歯の浮いたようなキャッチを言わなければならない。学芸員ではちょっとそんな恥ずかしいことは言えないなということでも、やはりやっていくような戦略も必要です。そういうこともできるスタッフで、なおかつちゃんと歴史とか価値もわかりつつ動ける、コミュニケーション能力を持った人をきちんと確保して、住民と繋いでいく。着工のゴーサインが出ないからとボヤボヤしてはまにあわないので、開館のPRも視野に入れての動き方というのもそろそろ始めないと。

委員長： 色々と厳しいご指摘、ご提案がありましたけど。事務局は今の段階でそこら辺は何かありますか。

事務局： 人員的な部分については組織人員要望という機会がありますので、昨年もそうでしたが今年も学芸員2人を要望していきます。体制づくりに向けて、もう離陸の時、スタート直前だと間に合わないの、説明の機会がありますのでその辺は周知していこうと思っています。人の補充については厳しい時代になってきていますが、実情を訴えていくセクションとしては非常に大事な役目ということを十分承知しておりますので声が届くように努めていきます。現状として体制づくりについては本当にソフト面をうまく、館ができたから終わりということではないので、委員から言われているということは重々承知して、その辺のところを理解していただけるように体制づくりに努めていきたいと思っています。

あとPRが下手ということで、確かに知っている人だけという部分のご指摘のとおりだと私も思います。せつかく作ったチラシでするのでどうやっていくかについて引き続きご指導いただければありがたいなと思いますので、よ

ろしくお願いします。

委員長： 委員の方々に相談しながら進めていただければと思います。
それではこれで、本日の議題については終了させていただきます。
それでは、事務局に引き継ぎます。

-以上-